

自然ネット参加団体の取り組み (50音順)

戦略基本目標 1 自然とのふれあいを通じた生物多様性の重要性の市民への浸透

NPO法人環境ネットワーク 小倉北区

実施内容

活動名称 カブトガニ産卵観察ツアーの運営

取組内容

目的・趣旨

市民に対して、生物多様性の重要性と啓発を目的とし、日本有数のカブトガニの産卵地である曽根干潟において、カブトガニの産卵観察および専門家による解説。また曽根干潟の野鳥を観察し北九州市の自然環境を体感して頂くツアーを開催。

活動内容

「日本カブトガニを守る会福岡支部」メンバーの協力を得て、現地で、実際の産卵観察とカブトガニの生態の説明を2班に分けて交互に体験して頂きました。その後砂浜まで移動をし、野鳥観察と水辺の生き物の観察をしました。打ち上げられたカブトガニ(死骸)を手にして観察し説明を受けました。最後に砂浜周辺のゴミも拾って持ち帰りました。

成果

身近な場所にカブトガニが生息していることに大きな驚きと共感を得られたようで、子供達にも記憶に残る実体験が出来たと思います。また、環境保全の大切さを感じて頂けたと理解しています。



1班は産卵観察へ



テント内で生態の解説



打ち上げられたカブトガニの死骸



砂浜の観察



参加者が自主的にゴミを拾い持ち帰る

今後の展開

専門家による説明は「知識の泉」です。海辺のツアーをはじめ山の散策、自然を体験することを通して、野生生物の減少や広範囲の環境に及ぼす負担を知ってもらい、市民各自が無理のない活動に取り組まれることを願っています。

北九州グリーンヘルパーの会 門司区

実施内容

活動名称 里山保全事業(小倉南区合馬地区:竹林整備、植樹他) 農事体験事業(小倉南区徳吉地区:休耕地の有効活用)

取組内容

目的・趣旨

合馬地区には約300ha竹林が存在するとされている。その内100haは管理されて筍が生産されている。残る200haは放置状態で荒廃が進んでいる。当会に管理を託された部分は0.5haと小規模だが、少しでも地域の竹林を整備保全する。会の目的である「未来に美しい豊かな自然を残し育てる」を胸に、会員相互の交流・研修の場として委託された地区の整備と維持管理及び植生回復に努める。伐竹材を活用した自然環境学習活動(出前教室・夏)を拡げる。農事体験を通じて里地環境の保全(休耕地の有効利用)に努める。

活動内容

里山・里地保全事業:
竹林整備(竹林間伐・筍掘り)
竹林全伐・跡地の自然植生回復(市・自然環境保全活動支援による助成)
出前教室による自然環境学習(夏=ソーメン流し/各区市民センターなどで開催)
休耕地で野菜や各種植物の栽培(安全・安心野菜作りに挑戦)
他団体の応援
鳥のさえずる緑の回廊植樹(若松区)…コロナ禍の為中止



出前教室そうめん流し(2019)



整備が進んだ竹林

成果

竹林間伐の結果、筍が間伐地内に沢山喜んで顔を出すようになった。
2019.3月より新しい放置竹林で環境整備を始めた。
この2年間の竹林整備活動で3分の1ほどのエリアの枯れ竹等を整理し、見違える様な竹林に甦っている。

課題

現在、23名の会員がいるが、会の趣旨を理解し、自然環境保全に興味があり、意欲的な方の入会を期待している。年齢性別を問わず、随時募集中。里山里地の自然環境を整え、将来に豊かな自然を残すことを夢見るあなた、是非、ご参加ください。活動で汗を流し、自然もあなたも健康体になり、自然の恵み(筍や野菜など)にあずかる喜び。待っています。

今後の展開

若い人が合馬の地(自然)に親しんでもらいたい。北九州市内の学生さんなどと交流深め、子どもたちに自然の大切さを知ってもらう機会を増やしたい。

北九州植物友の会 小倉北区

実施内容

活動名称 自然観察

取組内容

目的・趣旨

植物を通して自然を正しく理解し、快適な自然環境の保全、地域文化の向上に寄与することを目的とする。この目的を達成するために例会、同定会、研究会等の行事を行う。

活動内容

コロナ禍により、計画された月例会の変更を余儀なくされた。野外観察会ならびに室内学習会・同定会は中止5回。月例会は年6回となった。会員数36名。例会参加者計72名。友の会誌「北九州植物友の会会報」A版オールカラー年1回発行。

成果

野外観察会月例報告6件、予備調査報告4件、会員個人による活動報告2件ならびに研究報告1件をA4版30頁(会員数36名)の北九州植物友の会会報第44号に掲載した。



課題

さらなる活動の活性化のためには、会員の平均年齢上昇に歯止めをかけるために、若い世代の会員を増やしていく必要がある。

今後の展開

長年の間、開催してきた月1回の野外観察会・室内研究会・同定会ならびに年1回の友の会会報の発行を継続していくことを第一義として活動していきたい。

NPO法人北九州ビオトープ・ネットワーク研究会 若松区

実施内容

活動名称 平成竹取伝説

取組内容

目的趣旨 合馬の筍がブランド化する北九州市であるが、放置により荒廃する竹林・里山も少なくない。そこで、北九州学術研究都市およびその周辺の竹林・里山を市民・NPO・企業が協働し、生物多様性や景観の保全を図るものである。

活動内容 2004年1月から毎月1回(原則第二土曜日9:30~12:00)、市民・NPO・企業が協働し、竹林・里山の保全活動を実施

成果 北九州市学術研究都市周辺における竹林の間伐作業を行い、景観保全及び生態系保全に努めた。水路沿いに浸食している竹の間伐作業及び草刈りを行うことによって虫が生息できる環境を整備できたことが成果としてあげられる。また新型コロナウイルスの感染拡大防止策も考慮しながら活動場所や広報の方法などを工夫し、活動継続に向けて取り組みを行った。

課題 今まで主に人の目の届かない森林竹林で活動をしてきたが、地域からも良く目につく里山で活動することの重要性を感じ、これからは地域に根ざした活動や人材育成にも努める。



今後の展開

北九州市若松区にはのどかな田園風景が残っており、ヘイケボタルなどの希少種も存在している。しかしヘイケボタルが生息するエリア付近では竹林が繁殖し水路沿いでは雑草が繁殖するなど、ヘイケボタル生態系への影響が示唆される。今後は竹林整備をベースにヘイケボタルなど由来の動植物の生態系の保全を目指す。

NPO法人 里山を考える会 八幡東区

実施内容

活動名称 北九州里山トラスト会議

取組内容

目的趣旨 里山の自然でのさまざまな体験や保全活動等を通じて、人間と自然の共生について理解を深めていく。

活動内容 里山トラスト会議では、里山の自然維持・管理活動を中心とした活動を年20回程度行っている。具体的な活動としては、侵入竹の除去や下草刈り、遊歩道の整備、自然観察会などである。また、里山トラスト会議最大のイベントとして毎年11月に「里山祭」を開催している。森の中で料理、クラフト体験、里山さんぽ、音楽演奏会を実施するなど、普段あまり自然に接する機会の少ない方にも興味を持ってもらえるような活動を行っている。

成果 里山トラスト会議の活動は、14年間継続することができている。今季の活動では、新型コロナウイルス感染症対策を実施しつつ、小規模ながら年間15回程度の活動を実施することができた。また少しずつではあるが、ユース世代や大学生並びにNPOとの協働ができている。



課題 里山トラスト会議での課題は、コロナ禍の影響もあり活動メンバーの偏りは感じている。若者世代は車の所有や運転免許を持たない人が増えてきた感覚を持つ。主に山での活動が多いため公共交通機関が少なく不便な場所が多い特徴があるため、それらを支え合うため参加者同士の関係づくりも継続的に進めたい。

今後の展開

これまでの活動実績をベースに今後も里山での取り組みを継続していく。今後も活動を通じて「自然との共生」について理解を深め行動できるきっかけづくりを進めていきたい。

女性植物友の会 小倉北区

実施内容

活動名称 自然観察

取組内容

目的趣旨 各地の貴重な自然や身近な北九州の自然を再認識する。

活動内容 最近環境の整備や道路補強など、又環境の温暖化によっても植物環境に変化があるのではないかと考えられます。普通に見られた路傍の草花も見かけなくなりました。山野の自然がますます貴重になります。私たちなりの観察を楽しみたいと思います。自然ネットの会のさかんな皆様のご研究も参考にさせて頂きたいと楽しみにしています。

成果 英彦山や金立公園(佐賀県)、九重男池などに出向いて各地の植物などを観察する例会を8回開催し、各地の自然に触れました。

課題 身近な自然を見つめる機会を多くつくりたい。



今後の展開

会員の高齢化が進んでいるが、楽しく、できる限り長く続けていきたい。そして、1人でも多くの同好の仲間を作りたい。

日本熊森協会 福岡県支部 八幡西区

実施内容

活動名称 皿倉山自然林観察ツアー

取組内容

目的
趣意

保水力の高い豊かな森を知る

活動
内容

実際の森の現状を観察

成果

大地に根を張った自然林と放置人工林とをその違いを比較し目にした。

課題

森林環境譲与税が放置人工林の再生へ活用されることを願う。

今後の展開

これから人類が生き残っていくためにも、空気と水は重要な課題なので国民的大運動となればと思います。



自然林は根が大きく張っており、保水力はあり災害に強い。



人工林(杉)は放置人工林で根が張らず表土が流れ大雨で土砂崩れた様子です。

深町どんぐりのもり保育所 若松区

実施内容

活動名称 さつまいもの苗植え・さつまいも掘りをする

取組内容

目的
趣意

自分たちで野菜を育てながら自然に親しむ。

活動
内容

- ・さつまいもの苗を植え大切に育てる。
- ・大切に育てたさつまいもを収穫する。
- ・給食で調理したさつまいもを味わう。

成果

自分たちで野菜を育てることや収穫を楽しみ、それを調理したり食べたりすることにより喜びが増した。

今後の展開

季節に応じて、様々な野菜や植物の栽培や収穫を経験できる場を多くしていく。



NPO法人帆柱自然公園愛護会 八幡東区

実施内容

活動名称 植物ウォッチング

取組内容

目的・趣意
活動内容

豊かな自然環境とそれを支える植物達の生態を探る。

- ・年間10回、開催月の第1日曜日
- ・四季折々の植物観察で自然とふれあう

成果

- ・参加者204名 スタッフ延べ160名
- ・1年間継続された参加者は回を重ねるたびに植物観察のベテランへと成られていった。

課題

新しい植物ウォッチングコースを準備する。



今後の展開

- ・地道な活動を重ねる中で、着実に「自然を愛する心」を広めてゆきたい。

紫川河川塾 小倉南区

実施内容

活動名称 おやし 親父とボクの“うなぎ放流会”in中谷

取組内容

目的・趣旨

- ・地域の大人や子どもに参加していただき、地元の山や川などの自然に触れることにより、自然保護の意識向上を図る。
- ・川と触れ合うことにより、川遊びの楽しさを知っていただくとともに、川遊びの危険も理解してもらう。
- ・川の築校、山の築校を開催して、山・川・水の大切さを理解する。

活動内容

紫川上流の旧道原小学校校庭で、うなぎの稚魚約100匹を放流。昼食には中谷地区まちづくり協議会女性部が作った、豚汁・おにぎりを食べた。

成果

中谷地区(すがお小学校校区)の児童、すがお放課後児童クラブ、児童福祉施設双葉学園の生徒、役員を含め約100名の参加となった。放流により、うなぎは増えているようだ。地域の人たちも時折うなぎ取りに行っているようである。



課題

全体としては多くの人に参加していただいたが、地元の児童や大人の方々の参加が少ない。各方面にもっとPRをして、地域をあげての活動にしたい。

今後の展開

うなぎの放流だけではなく、別の行事も行うようにしたい。以前、桜の植樹の行事を行ったが、今ではうなぎの放流会が定着している。

皿倉登山鉄道株式会社(皿倉山) 八幡東区

実施内容

活動名称 さくら森のがっこう、皿倉観祭会

取組内容

目的・趣旨

都会の子どもたちは、自然に触れる機会が少なく、自然の中で遊ぶ楽しさを知らない。自然に触れあい、遊びを通じて学ぶ場を提供したいと考え始めたのが「さくら森のがっこう」である。

成果

帆柱自然公園でたくさんの仲間とともに、こけ玉作り、天体観測などさまざまな遊びを通して、「自然と森」を直に体験し、自身の好奇心、感性を育んだ。



合同会社Discover Walks 若松区

実施内容

活動名称 プライベートガイドツアー
「響灘、海ゴミは語る ～“現場”であなたは何を推う～」

取組内容

目的・趣旨

名称に変遷は有りますが、同様のプログラムを15年間、オーダーメイドで続けています。報道や伝聞でこの問題や様相を知識として頭では理解していても、実際に「現場(フィールド)」で自身の五感で体感したことがある方々はまだ圧倒的少数です。日々の暮らしの中で、小さなことから行動を変えていく、行動を起していくためには、現場での実体験が不可欠だからです。また、一般的な日時限定のクリーンアップイベントでは多くの賛同・参加を見受けませんが、「今日は良いことしたね。」という満足で終わってしまいがちです。それらのモノの背景や自然・私たちの日常との関連はどうなっているのか、拾い集めたモノの後処理はどうなっているのか…等々、イベントではなかなか触れられない「背景にあるコト」を実体験とインタープリテーションで「識り」そして各々ご自身で「推う」きっかけとして、このプログラムを提案し続けています。

活動内容

COVID-19未収束のため、弊社自身が営業自粛の1年でしたので、ツアーのご依頼はゼロの一年となりました。responsibleやsustainableに関心のある同業者や学生さんにプログラムの一部を現場で短時間、模擬的にご案内した程度です。また、環境省委嘱の自然公園指導員として、自然海浜の定点モニタリングと出来る限りの漂着物回収を毎月数回の頻度で継続しています。



成果

「参加者数や回数が成果」とは一切考えておりません。これまでの15年間のプログラム提案・提供を通じて、参加された方々が、表面的な理解ではなく本質的な理解を深め、何らかのアクションや行動変容に繋がっていることを願って続けています。また、参加費の約半分はこの問題に取り組むNGOや市民団体に寄付しています。そのサイクルを回すために、あえて「それなりの対価」の有料プログラム(お金取るのか!と思われるかもしれませんが。)にしております。

今後の展開

これまでの15年間と変わらず、地味に地道に継続いたします。弊社はインベーターでもゲームチェンジャーでもありませんので、社会的な変化は起こせませんが、参加された方の心に響き、価値観や行動の小さな変化のきっかけとなるような活動でありたい、と願っています。プログラムの運行においては、環境や社会に対してより一層responsible/sustainableであるように、2022年6月以降、プログラム中の移動部分も自転車や公共交通(路線バス、筑豊線のBEC)に変更し、プログラムのライフサイクル全体で一層高いレベルでのlow emission & low carbon化をはかります。なお、「少人数、1組貸切り」のツアースタイルは不変です。(団体では実施いたしません。)

戦略基本目標 2 地球規模の視野を持って行動できるような高い市民環境力の醸成

北九州市立市丸小学校 小倉南区

実施内容

活動名称 地域の人・もの・ことのかかわりを通して主体的に学ぶ生活科・総合的な学習の時間

取組内容

目的・趣旨 市丸(東谷)地区の自然豊かな環境を生かした体験活動を全学年を通して本校独自の教育課程として編成し、児童が主体的に取り組む教育活動を展開・実践する。

活動内容 地域環境を「人・もの・こと」の視点でとらえて開発した地域教材の検証・見直しを行い、児童が主体的に取り組む学習展開を工夫して以下の実践を行った。

- 1年生→「学校だいすき」「いきものと なかよし」
- 2年生→「おいしくそだて わたしの野菜」「もっと なかよし 市丸たんけん」
- 3年生→「夏野菜を育てよう」
- 4年生→「守ろう!里山の自然」
- 5年生→「めざせ!米づくり名人」
- 6年生→「守り広げよう!市丸の宝ガシャモク」



6年 お糸池水質調査



6年 しじみ放流・観察

成果 教材の時期を見直したり、他教科との関連を図ったりして、従来の教材の見直しを行うことができた。また、各学年で場に応じた思考のツールを活用して学習展開を工夫することで、地域の「人・もの・こと」のよさを感じ、主体的に学習活動に取り組む児童の姿が見られた。

課題 今後も、よりよい環境の創造や保全に主体的に取り組む態度や能力の育成を図ること。

今後の展開

来年度もこれらの教材を児童の実態をもとに見直して、教育課程に位置付けると共に、故郷「市丸」のよさを語ることができる児童を育てていきたい。

北九州インタープリテーション研究会 小倉南区

実施内容

活動名称 北九州の身近な自然を伝えるインタープリテーション

取組内容

目的・趣旨 布絵シアターで、コロナ禍で自然との触れ合いが少なかった子どもたちの活動を支援

活動内容 SDGs 推進のための SDGs 図書館大作戦や SDGs アート大作戦といった活動を推進しています。またジオ&バイオ研究会のメンバーとしてジオかるたやすごろくの制作などを行いました。



(公財)北九州活性化協議会もったいない総研 小倉北区

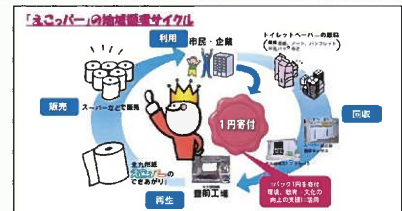
実施内容

活動名称 リサイクルトイレットペーパー「北九州紙えこっパー」による「もったいない」を未来に引き継ぐ事業

取組内容

目的・趣旨 牛乳パック等の古紙リサイクルによる再生トイレットペーパー「北九州紙えこっパー(以下、「えこっパー」)」の開発、製造、販売・普及を通じて森林資源の保全、都市ごみの減量、製造エネルギーの節減を通じて社会に貢献し、SDGs達成に向けた地域住民の価値観の形成を通じて持続可能な市民参加型の地域循環型社会を目指します。

- 活動内容**
- ①「えこっパー」の普及促進活動(PR活動)
北九州市の各施設、北九州市内の百貨店、空港、ホテル等の大型施設および地元有力企業、金融機関等に設置いただき、幅広く普及促進活動(PR活動)を実施しました。
 - ②環境教育への貢献
「北九州の企業人による小学校応援団」と連携し、牛乳パックリサイクルを活用した小学校での出前授業を実施しました。



成果 「えこっパー」販売数(1パック:6ロール)
令和2年度:150,152パック
令和3年度:122,216パック(令和4年1月末現在)
※販売開始からの累計販売数:3,799,384パック(平成13年4月~令和4年1月)

NPO法人 北九州国際自然大学校 小倉南区

実施内容

活動名称 環境戦士 アースマン

取組内容

目的・趣旨

次の世代の子どもたちに解り易く楽しく、環境を学んでいただきたい。

活動内容

環境戦士アースマンというローカルヒーローと、地球を汚して、自分たちの住処にすることをたくらんでいる悪の軍団デスゾールの首領キドラー将軍と怪人たちのオリジナルキャラクターショーを地域や幼稚園・保育園で、行なっています。

絵本の販売やアースマンのテーマ曲のCDの販売も行なっています。

成果

北九州青年会議所や小倉南区社会福祉協議会プチボなどの団体とのコラボレーションや地域からの要請に答えています。

「愛・地球博」といった全国規模のイベントにも出演したり、福岡の海の中道でのイベントは、毎年の恒例となっています。



今後の展開

現在も大学生たちとコラボレーションしていますが、更に輪を広げていきたいと思っています。

北九州ほたるの会 小倉北区

実施内容

活動名称 2019ほたるのサミット北九州

取組内容

目的・趣旨

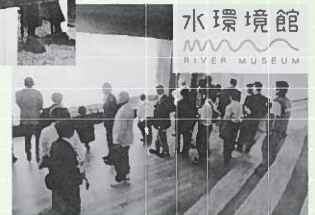
日本一のホタルの里を目指す6市町村の首長が一同に会し、ホタルを通じて生活環境整備や観光・経済・文化交流等を促進し活力ある緑豊かなふるさとづくりを推進

活動内容

2019年5月24日(金)～25日(土)、『2019ほたるのサミット北九州』が開催された。24日の歓迎式に始まり、水環境館などの市内施設の視察を行い、25日のサミット・レセプションには240名もの方に参加いただいた。

成果

市内で活動している小中学校の報告ができ、また、親水空間として生まれ変わった副都心黒崎の撥川で、地域・学校が育てている街中で見られるゲンジボタルと、そのホタルの育成をきっかけに始まったホタル祭りで参加市町の皆様を迎えることができ、多くの方に本市でのほたるに関する活動を知っていただけた。



今後の展開

今後も引き続きアドバイザー活動を行って地域活動の支援をすると同時に、韓国、マレーシア、シンガポール、香港、台湾、中国等とホタルを通じた国際交流の輪を広げていきたい。

福岡県立東筑高等学校生物部 八幡西区

実施内容

活動名称 動物の研究

取組内容

目的・趣旨

生物や自然環境を理解することを目的に、身近な生物の形態や行動のしくみを研究している。

活動内容

令和3年度は、3種類の動物、シミ・ナメクジ・コオロギについて研究した。本などの紙を食害するシミは、源氏物語にも登場する古くから身近にいる昆虫だが、注目されることはあまりない。顕微鏡観察をするとシミは銀色に光るウロコに覆われ、そのウロコには縦縞状の溝があった。そのはたらきを実験によって明らかにすることを試みた。

成果

読売新聞社主催第65回日本学生科学賞福岡県審査に3本のレポートを出し、シミの研究は最優秀賞を得て全国審査に進み、入選3等を獲得した。ナメクジ・コオロギの研究はそれぞれ県審査優秀賞・努力賞を得た。



ヤマトシミと実験の様子

今後の展開

動物の行動と自然環境の関わりについて研究を広げたい。